ホーム転落事故防止の可動式ホームさくの設置を早急に求める決議

ＪＲ東日本の山手線目白駅で１月16日、全盲の男性がホームから転落し、亡くなる事故があった。視覚障がい者の人たちにとって、駅のホームがどれほど危険な場所であるか、「欄干のない橋」にも例えられる駅ホームから「落ちない駅ホーム」へ、可動式ホームさく、ホームドアの設置を飛躍的に進めることが、強く求められる。

全日本視覚障害者協議会によれば、1994年からの16年間に、転落や電車との接触で亡くなった視覚障がい者は41人に上る。安全対策として今、重視されているのが、ホーム要員の確保とあわせ、ホームに防護さくを設けて乗降時にドアをあける可動式ホームさく、ホーム全体を覆って乗り越えも防ぐホームドアの設置である。実際、可動式ホームさくなどがある駅では「転落による事故は皆無」（国土交通省）である。国の法律は、こうした駅にホームドアや可動式ホームさくを設置することを目標としている。しかし、対象となる2,800余の駅のうち、ドアなどを設置しているのは約500駅。今後の整備予定も、新たな設置を計画しているのは全国205の鉄道事業者のうち、ＪＲ各社や大手私鉄など14社で、計24路線285駅を挙げているにすぎない。国土交通省もようやく鉄道事業者などを集めた検討会を設置し、今夏をめどに、整備促進策をまとめるとしている。だれもが安全、安心で、命を守る公共交通へ、可動式ホームさくの整備を大きく進めるときである。

よって、本市議会は、政府及び東日本旅客鉄道株式会社に対し、三鷹駅を初めホーム転落事故防止の可動式ホームさくの設置を早急に求めるものである。

上記、決議する。

平成23年３月24日

三　鷹　市　議　会